



だより

— つながれ ひろがれ —

編集 環境パートナーシップちば
 代表 加藤賢三
 事務局 千葉市中央区中央港1-11-1
 (財)千葉県環境財団環境技術部
 環境活動推進チーム
 電話 043-246-2180
 FAX 043-246-6969

平成 18 年度定期総会開催 ~ 設立 10 年目を歩む年 ~

第一部 総会

5月13日(土)、船橋市女性センターにて、「環境パートナーシップちば」の平成18年度の定期総会が開催されました。荒尾繁志氏の司会で始まり、代表の加藤賢三氏より挨拶の後、千葉県環境生活部環境政策課副技監(兼)温暖化対策推進室長 千代慎一氏、千葉県環境財団環境管理グループ、千葉県温暖化防止活動推進センター事務局長山口幸一氏よりご挨拶いただきました。その後、議長に土田茂通氏、書記に服部洵氏が選出されました。平成17年度事業を中岡丈恵氏、収支決算を桑波田和子氏、会計監査報告を大西優子氏より報告がありました。17年度は助成金事業が3件あり、収支決算報告書の記入についての質疑応答がなされ、最終は運営委員会に一任され承認されました。次に、平成18年度事業計画(案)、予算(案)、役員改選(案)の提案があり、質疑応答となりました。役員改正については、加藤代表から「役員は総務部、事業部と代表預かりとなっているが、今後事務局体制を整え、活動をプロジェクト制に移行していく方向で検討している為。」との返答がありました。また、助成金事業での負担額など今後の課題も検討していく必要があり、運営委員会で継続審議とする事を踏まえ、承認されました。



(千代 慎一氏)

第二部「環パちば創立10周年記念事業を考えるワークショップ」

18年度は、環境パートナーシップ創立10年目を歩むこととなります。平成19年度は10周年記念事業開催も予定しています。今後の方向性を考え、活動する為のワークショップを開催しました。まず、進行役の横山清美氏より「当団体の評価できる点・出来ない点」を各自記入して提出してくださいと提案されました。評価できる点としては、「10年間続いたこと」「だより、エコメッセや環境シンポジウムなどへの協力等、地道な活動が突っと思った」と等。出来ない点、今後の課題としては、「創立当初は団体をつなぐ団体となるはずだったので」「会員の事業参加が少ない」「個々の力が引き出されているか？」等ありました。まとめると、「団体が加入する為の魅力作りが必要」「環境問題への入門編の役割を担う」「プロジェクト制(企画ごとに人材を募る)が効果的ではないか」。このことを踏まえ、今後の事業として・10年誌を発行する(内容:環パちばの歴史、環境団体ディレクトリ、人材のデータベース)・パートナーシップについての学ぶ場を設ける。など、短い時間でしたが、今後につなげるワークショップが出来ました。これを基に、「環パちば10周年事業準備委員会」として広く参加を呼びかけ、進めていくこととなります。



(交流会)

(文責 桑波田)

総会を終えてお願い事

総会資料(17年度事業報告書・17年度決算報告書、18年度事業計画書・18年度予算書、役員紹介)を、だより49号に同封いたしました。ご質問などございましたら、下記までお知らせ下さいませ。また、次号の「だより」は、50号となります。10年目を歩む年として、加入団体、個人会員の方からの、近況報告、活動紹介、当会に寄せる事等、「だより」50号～54号までに掲載したいと準備しています。400文字と写真1枚を下記までお送り下さい。

問い合わせ・送り先：〒262-0024 千葉市中央区中央港1丁目11番1号

(財)千葉県環境財団環境学習推進室内 気付

環境パートナーシップちば

TEL & FAX : 043-258-5437 E-mail : kuwahatak@hotmail.com

第3回「里山シンポジウム」全開会開催

第3回里山フェスティバルの一環である「里山シンポジウム」は、2006年テーマ「里山とゴミ」で、全体会日時：5月20日(土)、会場は八千代市市民会館 小ホールで開催されました。主催は里山シンポジウム実行委員会、ちば里山センター、(社)千葉県緑化推進委員会、八千代市、千葉県です。

里山シンポジウムの由来は、2003年の5月に全国植樹祭を木更津市で開催され、同時に千葉県の里山条例が全国に先がけて施行されたため、この5月18日が里山の日と定められたわけです。

2004年に、県内の市民ボランティア団体が千葉県等の支援を頂き、第1回目の里山シンポジウムを木更津市のかずさアカデミアで開催、去年は全体会が我孫子市で、今年の全体会は、八千代市でした。このシンポジウムでは、第1回目は11分科会に分かれて、去年は14、そして今年は18の分科会に分かれ、千葉県下7市において開催され、里山の活用、機能についての話し合いを展開してきました。

分科会は、1政策・環境税、2)里山と水循環、3)里山と水鳥、4)里山と信仰、5)里山と観光、6)里山と医療・福祉、7)里山と野生動物、8)里山と竹林、9)里山と分科・伝統、10)里山と森林・林業、11)里山と教育・学習、12)ビオトープとしての里山保全、13)学校と農業者、14)里山と残土・産廃、15)里山と谷津守人、16)里山と田んぼの勉強会、17)里山と食、18)里山と芸術、です。詳細はHP：www.jgoose.jp/satochiba をご覧下さい。

全体会では、里山を活かす上勝町の戦略“彩り産業”とゴミ作戦というテーマで、星場真人氏(徳島県勝浦郡上勝町)の基調講演がありました。次に分科会報告があり、「里山に託す私達の未来：里山とゴミ」というテーマで、パネルディスカッションが行われました。コーディネーターは藤原寿和氏(廃棄物処分場問題全国ネットワーク事務局員)、パネリスト



(星場 真人氏)

として、大槻幸一郎氏(千葉県副知事)、井村弘子氏(残土・産廃問題ネットワーク)、林 秀一氏(市原市古敷谷在住)、星場真人氏(徳島県勝浦郡上勝町)が参加されました。

特に印象に残ったのは、基調講演でした。里山の環境を生かして産業を振興させ、さらにお年寄りの暮らしや健康までも改善された取り組みを紹介していただきました。

里山の再生、ごみを資源にする方法、高齢化社会の活性化、街づくりの秘訣、これからの高齢化社会が直面するほとんどすべての課題に見事に立ち向かって行く様子、たった2000人の町から世界に発信する姿は、千葉県でも、各市町村でもすぐにも参考にすることができるのではと思いました。

今回は、「里山とゴミ」という、千葉の恥部、産廃銀座にも焦点を当てようということになり、ごく短い時間に多くの複雑なことを決めながらすすめていくという、離れ業をもって開催にこぎつけています。今回の、三回目の里山シンポジウムはいろいろな課題もあるかと思いますが、第四回目に大きな期待ができるものと思いました。

(文責 広報部)

親子で・お友達と、夏休みの自由研究に・・・と、印旛沼博士をめざしませんか！

印旛沼をきれいにする活動 印旛沼をきれいにする活動

みて！・・・・・・・・・・私達の飲む水はどこで作られ、どこに流れるの？
さわって！・感じて！・・・・川为学校開催
(印旛沼流域の川で、水調べ・生き物調べ・ごみ拾いなど)

考えて！・・・・・・・・・・ どうすれば印旛沼の水はきれいになるのかな？

《主旨》

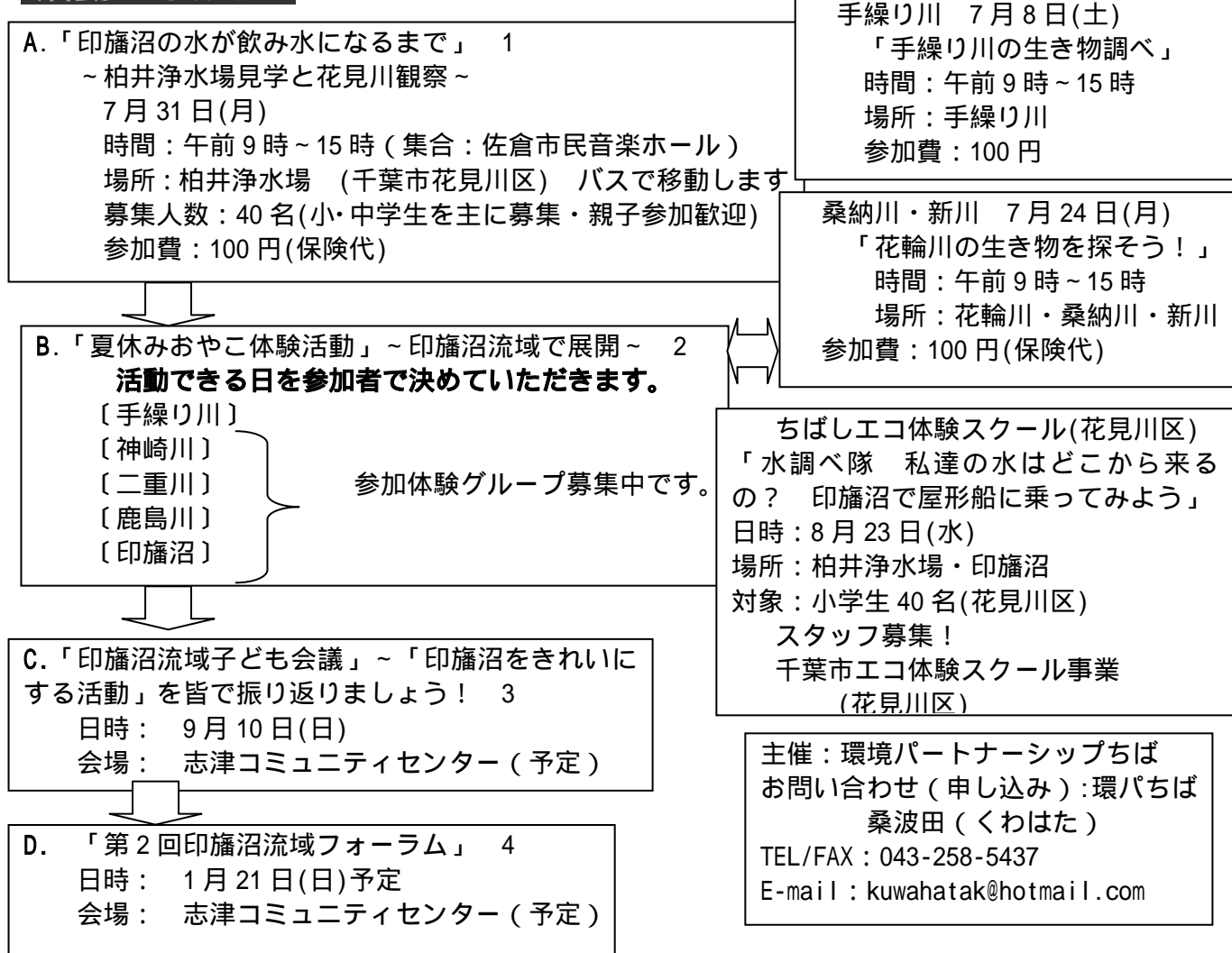
印旛沼は、飲み水として使われている湖や沼の中で、ワースト1の水質です。
「環境パートナーシップちば」は、このことをみんなに知ってもらうために、印旛沼を見て・さわって・感じて・考えてと、活動して来ました。

18年度も引き続き、印旛沼流域で地域の小・中学生の親子を対象に、生き物調べ・ごみ拾いなど体験する「川の学校」を開催して、印旛沼をきれいにする活動を展開します。

また、次世代を担う子どもたちと一緒に継続的に環境の再生・保全に勤め、環境学習プログラムを作成します。これらの活動は、環境活動団体、当会会報「だより」、など掲載し発信します。また、「エコメッセちば」や「環境シンポジウム千葉会議」、「印旛沼わいわい会議」、各市町村の環境イベントなどに参画・協力・発表します。

1～4 「NPO主体の新たなまちづくり事業」(西印旛沼流域地域)
「印旛沼あっぷモデル事業 2006 助成金事業」

活動のながれ



県とNPOとの協働事業(17年度)

体験型環境講座の実施報告

ストップ地球温暖化推進会議 内山明治

この環境講座は、千葉県よりの委託事業です。

実施者：ストップ地球温暖化推進会議

実施日：2006年2月4日(土)快晴。参加者60名。
環境問題のなかで「地球温暖化防止」は、最重要問題のひとつです。この講座では、エンジン排熱トースターや人力発電機など自作教材と、CO₂濃度測定器を使い「わかりやすい体験学習」を展開しました。

この講座は「地球温暖化問題を身近に実感」していただき、省エネに取り組む市民が、一人でも多くなることを目指した内容です。

最初に「体験実習： エンジン排熱でパンを焼く」を紹介し、この装置は、今回の体験講座にあわせて本会が作った「コ・ジェネレーション教材」です。

北風の中で、小型のエンジン発電機がタンタンタン・・・・と、軽快な音を響かせていました。800Wの湯沸しポットは発電機からの電気で湯気を噴出しています。エンジンの排気管部分に取り付けた「特製トースター」からパンの焼ける甘い香りが漂い出て、約3分で食パン2枚がこんがり焼けました。熱量は800W位の電気トースターに相当します。この発電機は最大出力1000Wですが、排熱も利用すれば1800W分のパワーを利用したことになります。みんなでパンを食べ、コーヒーをのみながら「コ・ジェネレーション」を体験し、熱効率について学習しました。地球温暖化防止のために、エネルギー利用効率を高めることが必要です。

次に、午前の全体講座と午後の班別実習を結びつけた「内容の流れ」を記述します。

産業革命以降、大気中の二酸化炭素(CO₂)濃度が急増し、これと連動して地球の平均気温が上昇しているとIPCCは警鐘を鳴らしています。地球温暖化とエネルギー消費は「表裏一体の問題」です。

午後の「体験実習： 街角のCO₂量測定」では、道路や公園など身の回りのCO₂濃度を測定しました。この測定を通して「目で見えないCO₂」の存在を実感できました。また、植物がCO₂を吸収していることも分かり「ppm」という単位も身近になりました。IPCC報告などの資料も理解しやすくなります。

急速な地球温暖化傾向は、人類が大量の化石エネルギーを消費し大気中のCO₂を増大させた結果です。地球温暖化防止のためには、化石エネルギーの消費を抑制する「省エネ推進」が重要です。ところが私たちは、気付かずに大量のエネルギーを使っています。

「体験実習： あなたの発電でTVをみる」では、人力発電機「パワー君」を回して、ラジカセや電球をつけました。その結果、「人間が出せるパワーは100W以下だ!」と分かりました。さらに、2台のパワー君を



同時に回しどの位の電気器具を使えるか実験します。人力のパワーやエネルギーは微力です。「この実験でエネルギーの大切さ」を実感しました。

人間の活動を支える火力発電所でも、自動車を走らせても、大量のCO₂を大気中に放出します。たとえば、ガソリン20Lを完全燃焼すると大気中に約46kgのCO₂を放出します。つまり、ポリタンク1本分のガソリンから、女性の体重くらいのCO₂が出るのです。

「体験実習： 省エネゲームと環境家計簿」では、環境家計簿をつけて「我が家のCO₂放出傾向」を把握していただきました省エネゲームは「省エネかるた」です。内容は、「は」歯を磨いているときは水を止めましょう9300円節約、「す」炊飯器の保温は6時間までにしましょう2780円節約、のようなものです。何を節約すればよいか、年間でいくらの節約になるかが分かり「省エネ議論」の種になりました。

火力発電所や自動車のエンジンからは大量の「排熱」が出ます。エネルギーを大切に使うためには、この排熱を有効に利用することです。この「捨てている熱」を利用する実習が、冒頭で説明した「体験実習： エンジン排熱でパンを焼く」です。

地球温暖化防止のために、私たちひとり一人が意識を高め、出ることから「取り組む」ことです。個人個人の省エネ努めです。環境にやさしいエネルギーの導入や技術開発が必要です。そのための法制度ができるように、社会的な活動や提言です。

「体験実習： 太陽の恵みでお茶を」では、ソーラー調理器にのせたフライパンの中でポップコーンがパチパチとはじけ周囲にこぼしい香りが漂っていました。冬の太陽では、お湯が沸くまで20分以上でした。ソーラー調理器の凹面鏡は直径約80cm、ですから、300~400Wの電熱器程度です。受講生は、コーヒーを飲みポップコーンを食べながら「太陽の恵み」を実感しました。自然エネルギーを積極的に利用する社会的仕組みも温暖化防止の決め手です。

参加者のうち、子ども7名と保護者には「やさしい親子環境講座」で対応しました。

大集合！あなたが主役！ごみ減量の達人なろう！

ごみ減量100事例「めんどくさいけれど、もったいない」

GONET 井上 健治 <http://www.gonet21.com>

何でこんなにごみが多いのだろうか？どうして、ごみが減らないのだろうか？

この疑問が今回の事業の発想のスタートでした。

簡単に「ごみ」といっても、実態の現業はとても奥が深く、様々な環境問題に関連し、社会的にもエゴと欲が複雑に絡み合っています。

事例集を作成するためには、皆さんの意見を集計する必要があり、皆さんがどんな考えをもっておられるかを調べる必要がありました。

具体的には、県内10箇所、今回は地域GONET・会員・県担当部署・市町行政担当部署と協働して、市原、成東、千葉、柏、茂原、市川、佐原、船橋、松戸、御宿、佐原の各市町で2005年10月～2006年1月まで開催しました。参加者の想定は、10名～15名でしたが、実際には、10会場で3名～17名 計81名（延べ参加者118名）の参加がありました。

各会場は公民館、会館、地域センターを活用し、できるだけ地域の声を集めるため、口コミ、広報、案内チラシなどで呼びかけをしました。各担当がリストアップした参加者は、平均22.3名。参加者の間際でのキャンセル等があり、開催当日まで参加者の確保に奔走され、大変なご苦労を推察いたします。当然ことながら、この尽力がなければ、この事業自体の遂行が不可能でし、参加者、地域担当を含めて、皆さんの力で進んでいる事業であることを実感しました。



参加者は、社会的モラルの高い、年齢もさまざまな老若男女が集結され、和気あいあいにととても良い雰囲気の中で交流、意見交換がなされました。出された提案は重複もありますが、参考になる、すぐに使える提案が、1会場平均約25件、計246件もあり、約110件の事例ヒントを掲載した事例集が3月末に完成しました。

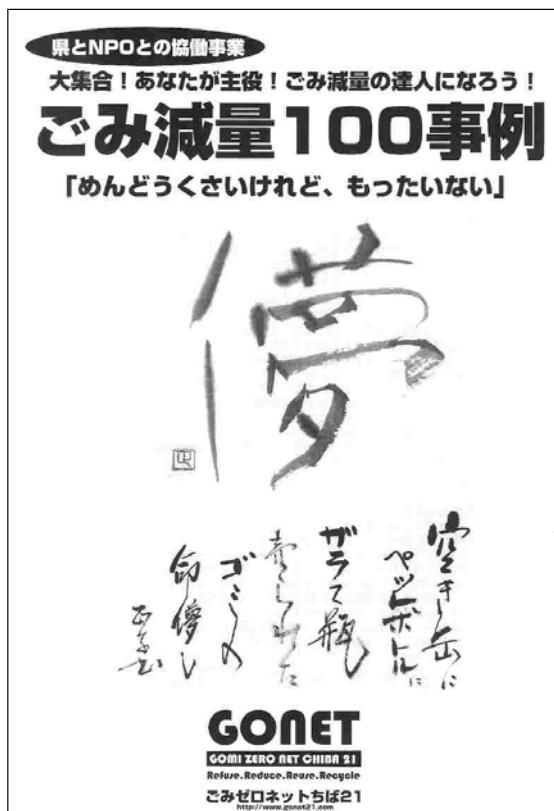
地区の市民、主婦の方を中心に参加募集を行いました。昨今の状況では、若い主婦の方はほとんど仕事をもたれており、ほとんどの会場が高齢者の方の参加になりましたが、人生の先輩方は視点が「まだ使える、もったいない」の気持ちがあり、生活の中での工夫をいろいろ提案されていました。

実際に地域や団体などで行動されている方よりも、意識があり、個人的に密かに実践されている方の参加が希望でしたが、多くの会場では混在するか、大半が活動実践者で必ずしも思惑通りにはなっていません。地域や団体で活動されていない方が萎縮し意見をいえない場面もあり、活動実践者が必ずしも、周りの方々に実践の呼びかけをしているとは限らないと思います。そのあたりの拡大が事例集の活用によりできれば、と思っております。

ある会場で参加者から、究極のメッセージを頂きました「物を買わない。買わないものを増やす。」買わなければ捨てることもない。

人が生活し生きていれば必ずごみは出ます。その私たちの生活の役に立った物への感謝としては、私も含め現状は無責任な人任せになっています。もう少し自分自身の生き方に責任を持ち、自分の生活から排出される物に、もう少し責任を持ちたいものです。

(写真は、成東会場風景と事例集の表紙)



ひょんなことで自転車事故に遭ってしまった。くるくる、めまいから数ヶ月ぶりにや

っと解放された。命拾いをした。鈴木大拙の言葉に「息を吸うのも快樂なり」がある。ベッドにいたときも感じた。息を吸う時の気持ち良さにはたまらないものがある。しかし 後から読んだ本(二人称の死 浅見洋著)で大変な意味を持つ言葉だと知った。人生の「肯定も肯定」大肯定を意味している。なるほど「息を吸い、息を吐くことは私を取り巻く環境と共生していることを端的に示している。その意味で私も生物的生命なのである。環境倫理としても重要視されるテーマであろう。同時に呼吸は「再生」そのものであり、社会(歴史的な社会)を場として生きる創造的な「つくりつくりされていく」個である、という。こう理解すると歴史的な社会の中で、生のリレーランナーとして、喜びを持っての「使命」に生きることができるということになる。「昔があって今がある」「未来があって今がある」「いま、”ここ、”に生きる意味もうかびあがってくるというもの。歴史的社会的生命観においてはじめて成立する考え方なのだ。私の読みが浅いとしても素直に理解できたのは事故に遭ったおかげかもしれない。

さて育ったところに行ってきた。病に臥す人としげんに幼いときの話になった。家の隣の人の消息やまわりの町名や街並みの話がでてきた。町名では城下町に特有な定禅寺 花京院通り 鉄砲町 二十人町 車通り 遣水町 空掘町 新寺小路に寺小路 霊橋と評定河原 などなど次々に出てきた。久しく忘れていた様々なシーンが浮かび上がってきた。全てがなつかしい名前であった。色々な仲間と遊び行きかいたところだった。

しかしそれらの地名は数十年後の今では殆どなくなり、「番号町名」になってしまった。町並みもすでに変わり果てた。何か大事なものをうしなったような気分が襲われた。

さてこのような感慨は誰にもあることであろう。年寄りの単なる感傷でないことを意識させたのは「二人称の死浅見洋著」だった。

人は誰だって親しい人、愛する人の死に遭遇するほどつらいものはない。それは、生前にその人と「私、

故郷 景観 自然 があって 私が在る

高橋 晴雄

いいかえれば “あなた” と “わたし” の親しい関係、対話があったことだ。でも見知らぬひとのそれはどうだろうか、なんとなく他人事と

なってしまう。著者は人間の尊厳への思索を「二人称の死」へのむきあいから始まったとして鈴木大拙を解説する。

そこで私は「人」を「ふるさと」におきかえてみた。私の故郷など他人にとっては何の変哲もないただの地域であろう。が私にとってはかけがえないものでとにかく懐かしい。問題はその逆もなりたつ。私は故郷を出てから45年。青、壮年期はたまにしか省みる事はなかった。私と同世代の多くの人たち(つまり経済の高度成長時を経験した世代)も故郷をたまにしか省みなかったのではないか。「故郷」に含意される意味を疎んじまった。結果として人間が手段化し生活が目的にはならない面白味のない日本社会作りに加担してしまったともいえる。今社会から様々な社会的病理現象格差 排除社会の事実をつきつけられている。私はその背景に「ふるさと」と「景観」を喪失させた列島[開発]があると思えてならない。よるべき心のふるさとを奪い浮遊させてしまっている。生活から心を取ったら荒廃がまっている。そんな中先行き不安から強い政治権力を望む風潮すらみられる。

故郷と自然 街並み 景観 そして近隣 の人々何よりも子供たち との「親しい関係」を作ることを阻む長時間労働 雇用形態を根本的に変えること抜きに活路はみいだせないであろう。まず私自身のこれまでの立居振る舞いも問われることになる。周りとの親しい関係 「貴方がいて私がいる」に加えて「故郷」も 「地元の自然」も 「近所」のひとも 「医者」も 「福祉」もみんな「二人称の関係 あなたの関係」になるようにすることであろう。そうかんがえると 先達が沢山おられることにきずく。里シンポや環境ちば 自然学校 そして地元の中に。行政人にも。足元にたちかえること、自分の持ち場で、脚下ではじめているひとたちである。里山シンポの広がりもある。多古町産廃施設阻止の運動も広がっている。最近亡くなった茨木のりこは「ダメな事的一切を時代のせいにするな それはわずかに残る尊厳の放棄」と詩にしたためている。わずかに残る尊厳の放棄はすまい。最後に親しい人に 自転車事故には気をつけよう。

環境パートナーシップエコサロン報告

「知ろう環境リスク」

日時：3月29日(水) 午後6時30分～8時30分

会場：船橋市女性センター 研修室

講師：石崎 勝己 氏 千葉県 環境生活部環境政策課 環境影響評価・指導室副主幹

3月6日に開催された、千葉県「化学物質リスクコミュニケーション セミナー」で事例紹介をされた石崎 勝己氏を講師に迎え、リスクコミュニケーションとは？リスクをどう考えれば良いか？等、日頃疑問に思っていることを学ぶ場として開催されました。

PRTR とは、Pollutant Release & Transfer Register の略で、有害性のある多種多様な化学物質がどのような発生源から、環境にどれだけ排出されたか、または、廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかデータを把握し、集計して公表する仕組みです。

環境ホルモンは天然由来のホルモンが圧倒的に多いけれども、現在でも化学から生じた環境ホルモン、中でも胎児に対する不安は大きいのでは？と参加者からの意見もありました。食品と化学物質という視点で、石崎氏からは、食品添加物が含まれた食品より、一般の食品に怖いものもあり、化学物質による環境リスクに県民の関心が意外に少ないとの事でした。また、室内にいる時間が長い人は、室内の化学物質による影響を知り、何が人体にとって有害か？を知る必要があるそ

うです。例えば、臭いがあり、頭痛があっても体に影響が少ないものもあり、無臭でありながら体に影響を与えるものもある。特に子ども、妊婦さん等では、一般と比べて影響が異なるので充分注意が必要となるとの事です。

環境リスクを考えた場合、どこまでリスクを減らし、どこまでやるか！事業所にはどこまで対応するか？が重要だが、事業所と家庭を比べると、家庭の場合が少なく感じるがありますが、実際は両方を見なければなりません。

ダイオキシンは、蓄積しているものが現在確認されており、例えばマグロにも含まれています。しかし、毎日食するものではなく、食しても少量なので、あまり深刻に考えなくても良いのではないのでしょうか？しかし子どもさんや妊婦さんは注意が必要でしょう等、石崎氏と参加者のディスカッションは時間を忘れるほどに熱が入りました。ポイントとして、企業や行政任せにするのではなく、地域住民として消費者としてもリスクコミュニケーションの学びの場を設定し、お互いの対話を継続していくことが必要と思いました。

(初山 正行)

運営委員会だより

4月運営委員会

- ・日時 平成18年4月24日 午前10時～12時
- ・場所 船橋市市民活動センター

報告事項

- 1) 17年度ちば環境再生基金事業報告書提出(4/20)
17年度「印旛沼をきれいにする活動」
(再生基金補助)報告書完成。

- 2) 「菜の花エコフェア in 大多喜」に参加

協議事項

- 1) 総会に向けての準備
 - ・17年度会計収支決算案について
 - ・収支決算書を会計監査
 - ・18年度予算案について
 - ・17年度の事業報告について
 - ・18年度事業計画
 - ・次回の運営委員会で再検討
- 2) だより49号について(内容検討)

4月運営委員会(総会準備の為)

- ・日時 平成18年4月27日 午後2時～4時30分
- ・場所 浦安市市民活動センター

協議事項

- 1) 総会に向けての準備
 - ・17年度会計収支決算案について
 - ・会計監査(小関氏、大西氏)に依頼。
 - ・18年度予算案について
 - ・17年度の事業報告について
環境パートナーシップちばとして、審議会などの委員の報告を掲載する。
 - ・18年度事業計画
 - ・18年度役員
 - ・会則は18年度変更なし。
- 2) 当日役割について

5月運営委員会

- ・日時:5月29日(月) 午後6時30分～8時30分
- ・場所:船橋市市民活動センター

報告

- ・総会報告

協議事項

- ・平成18年度事業計画の修正
- ・平成17年度収支決算書修正
- ・平成18年度予算修正
- ・だより49号について
- ・千葉市エコ体験スクール事業について
- ・印旛沼あっぱれモデル事業2006申請について
- ・ちばし手づくり環境博覧会、パネル出展について。

お知らせ

「印旛沼の水が水道水になるまで」

参加者、当日スタッフ募集！

月日：7月31日(月)

受付：9時00分(集合場所：佐倉市民音楽ホール
直接柏井浄水場も可)

時間：午前9時～15時

場所：柏井浄水場(千葉市花見川区)・花見川

募集人数：40名(小・中学生を主に募集・親子参加も歓迎)

参加費：100円(保険代)

持ち物：筆記用具・帽子・飲み物・お弁当

主催：環境パートナーシップちば

申込み締め切り：7月20日(木)

お問い合わせ(申し込み)：桑波田 Tel/fax：043-258-5437

e-mail：kuwahatak@hotmail.com

「NPO主体の新たなまちづくり事業」(西印旛沼流域地域)

「印旛沼あっぱモデル事業 2006 助成金事業」

環境パートナーシップエコサロン

日時：2006年8月21日(水)

18:30～20:30

テーマ：「景観法について」

講師：千葉県 県土整備部都市計画課

美しい県土づくり担当

場所：船橋市女性センター 研修室

申し込み問い合わせ：桑波田

Tel/fax：043-258-5437

e-mail：kuwahatak@hotmail.com

「水調べ隊～私達の水はどこから来るの？印旛沼で屋形船に乗ってみよう～」

参加者(花見川区在住小学生)、当日スタッフ募集！

目的：私達の飲み水はどこから来て？どこで作られているのか？体験しながら
水の大切さに気づくことを目的とします。

日時：8月23日(水) 午前9時～午後4時 予備日 8月25日(金)

集合場所(解散場所)：花見川区役所 花島公園

参加費：無料

参加対象：小学1年生～6年生(花見川区在住) 持ち物：水筒、お弁当、帽子、筆記用具

主催：環境パートナーシップちば

申込み締め切り：8月10日(木)

お問い合わせ(申し込み)：桑波田

【スケジュール】

- ・ 集合 (バスで柏井浄水場まで移動) 柏井浄水場見学 印旛沼を屋形船から観察 まとめ (花見川公園センター) 解散(花島公園、花見川区役所)

千葉市エコ体験スクール事業委託事業(花見川区)

会計より 17年度・18年度会費納入のお願い！

18年度会費の振込み用紙を同封いたしました。

17年度会費未納の方もよろしくお願いします。通知の行き違いがありましたらご了承願います。

納入をよろしくお願いたします。

個人会費は1年間¥1,000円、団体会費は¥2,000円。

広報部より

皆様の活動やお知らせなどの原稿をお寄せください。

ホームページに団体のリンクや連絡先としてメールアドレス等の記載をご希望の方はご連絡ください。

HP：www.geocities.co.jp/NatureLand/4632/

古紙 100%再生紙使用

「環境パートナーシップちば」は、環境活動の推進と充実を目指し、千葉県内の環境市民のゆるやかな連帯のもと、相互の情報交換と交流を深め、行政および専門家とのパートナーシップによる活動の展開を図ることを目的としたネットワークです。

申込先：千葉県環境財団 環境技術部
環境活動推進チーム気付

TEL:043-246-2180 FAX:043-246-6969

会費納入先：環境パートナーシップちば

郵便振替口座 00160-9-401872

<http://www1.u-netsurf.ne.jp/~kanpachi/>

千葉県環境財団環境技術部環境活動推進チーム気付

<環境パートナーシップちば>

入会申込書

会の趣旨に賛同し(個人、団体、賛助会員として)
会費を添えて入会します

氏名		入会年月日	
住所	〒		
TEL		FAX	
年会費	個人1,000円 団体2,000円 賛助会員5,000円		

